

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 2 区分

【発行日】平成24年3月1日(2012.3.1)

【公開番号】特開2010-169780(P2010-169780A)

【公開日】平成22年8月5日(2010.8.5)

【年通号数】公開・登録公報2010-031

【出願番号】特願2009-10532(P2009-10532)

【国際特許分類】

G 0 3 G 15/20 (2006.01)

【F I】

G 0 3 G 15/20 5 5 5

【手続補正書】

【提出日】平成24年1月18日(2012.1.18)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 7】

定着ローラ 9 2 とテンションローラ 9 3 に緊張状態に巻き掛けられている定着ベルト 9 1 は、図 2 に示すように、エンドレスの基層 9 1 a と、基層 9 1 a の外周面上に設けられた弾性層 9 1 b と、弾性層 9 1 b の外周面上に設けられた離型層 9 1 c と、を有する。基層 9 1 a の材料としては、耐熱性、可撓性を有する、ポリイミド、ポリアミドイミド、P E E K、P E S、P P S、P F A、P T F E、F E P 等の樹脂を用いている。弾性層 9 1 b としては、シリコンゴムにより形成された弾性層（ソリッドゴム層）、あるいは断熱効果を持たせるためにシリコンゴムを発泡して形成された弾性層（スポンジゴム層）を用いてもよい。あるいはシリコンゴム層内に中空のフィラーを分散させ、硬化物内に気体部分を持たせ、断熱作用を高めた弾性層（気泡ゴム層）を用いてもよい。定着ベルト 9 1 の表層として設けられている離型層 9 1 c は、未定着のトナー画像 t に対して離型性の向上を図るために、弾性層 9 1 b の外周面上に P F A、P T F E 等のフッ素樹脂をコートして形成してある。または、弾性層 9 1 b の外周面上にフッ素樹脂チューブを被覆して形成してある。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 9】

可動接点部材 2 0 9 及び固定接点部材 2 1 0 は、筒部 2 0 8 b の内部において可動接点部材 2 0 9 の先端 2 0 9 a と固定接点部材 2 1 0 の先端 2 1 0 a が重なり合った状態に接触するように折り曲げ加工が施されている。そして可動接点部材 2 0 9 の先端 2 0 9 a は固定接点部材 2 1 0 の先端 2 1 0 a に対して接点取付板 2 0 8 a 側に移動可能である。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 1 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 11】

